

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製 品 名	ミナパック
会 社 名	酒井化学工業株式会社
住 所	福井県鯖江市川去町 3 2 字 2 - 1
担 当 部 門	製造本部
電 話 番 号	0778-62-3705
	F A X 番 号 0778-62-3706

2. 危険有害性の要約

最 重 要 危 険 有 害 性 可燃性である。消防法指定可燃性にあたる。
特 定 の 危 険 有 害 性 切断面での切傷および加熱されたシートによる火傷に注意。
粉塵は眼や皮膚を物理的に刺激することがある。

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化背ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	事故反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
健康に対する有害性	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸引：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸引：蒸気）	分類対象外
	急性毒性（吸引：粉じん、ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・毒性(単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器・毒性(反復暴露)	分類できない
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示	非該当
注意喚起語	非該当
危険有害性情報	非該当
注意書き	非該当

3. 組成、成分情報

単一製品・混合品の区別 成分及び含有量	単一製品 含有量(wt.%)	CAS番号	官報公示整理番号 化審法	官報公示整理番号 安衛法
ポリエチレン	> 99	9002-88-4	(6)-1	既存物質
その他添加剤	< 1	—	(6)-18	既存物質

4. 応急措置

吸入した場合	高温の溶融樹脂から発生するガスを吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移ること。
皮膚に付着した場合	溶融物が付着した場合には、衣服の上から大量の水をかけ十分に冷却し、衣服を脱がせ医師の手当てを受ける。
目に入った場合	清浄な水で洗浄した後、眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。目をこすってはならない。
飲み込んだ場合	できるだけ吐き出させ、異常を感じるようであれば医師の手当を受ける。
応急処置をする者の保護	高温の溶融樹脂から発生するガスや溶融物が付着した衣類や保護具を取り除く。救助者が溶融物等に触れないよう手袋を、使用するなどの注意をする。

5. 火災時の措置

消火剤	水・泡消火剤（エアフォーム）・粉末消火薬剤・二酸化炭素等
特定危険有害性	燃焼ガスには一酸化炭素が含まれる。
特定の消火方法	消火作業は可能な限り風上から行う。 移動可能な製品は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 火元への燃焼元を断ち、適切な消化剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。 初期消火には水、粉末消火薬剤を用いる。大規模火災の場合には、耐アルコール泡で一挙に消火する。製品周辺が火災のときには、製品を安全な場所に移動する。 移動できない時は、製品に水を注水して冷却する。 消化作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を使用する。
消火を行う者の保護	

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	床面に残るとすべる危険性が高いため、こまめに処理する。 作業の際は適切な保護具を着用し、ガスを吸入しないようにする。 付近の着火源となるものを除く。 【引用文献1】
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
除去方法	漏出したものをすくい取り、または掃き集めて紙袋あるいはドラム缶等に回収する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に、消火の準備をする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策 火災・爆発の防止：作業場では火気をみだりに使用することを避け、整理整頓に努める。 注意事項：情報なし 安全取扱い注意事項：高温の溶解樹脂から発生するガスを吸入したり、皮膚に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。
保管	適切な保管条件：直射日光、水漏れ、急激な温度変化等を避ける。 貯蔵場所ではみだりに火気を使用しない。 技術的対策：情報なし 混触禁止物質：情報なし 安全な容器包装材料：クラフト紙・ポリエチレン袋等

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	粉塵を発生するような取り扱いの場合は局所排気装置を使用する。
保護具	取扱場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設けることが望ましい。 呼吸器の保護具：防塵マスク 手の保護具：保護手袋 目の保護具：保護眼鏡 皮膚及び身体の保護具：保護服（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等
管理濃度	設定されていない

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状：気泡状成形部を有するシート 色：透明 臭い：ポリエチレン臭 該当せず
pH	該当せず
物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲	融点：100～135℃
分解温度	335～450℃ 【引用文献2】
引火点	341℃ 【引用文献2】
発火点	自然発火性 400℃（平均粒径 24μm） 440℃（平均粒径 106μm） 【引用文献3】
溶解性	多くの溶媒に溶けにくい、芳香族炭化水素には比較的溶ける。水に不溶。

10. 安定性及び反応性

安定性	一般的な貯蔵、取扱いにおいては安定
反応性	自己反応性なし
避けるべき条件	直射日光、水漏れ、急激な温度変化
避けるべき物質	特になし
危険有害な分解生成物	一酸化炭素(CO)

11. 有害性情報

急性毒性	情報なし
局所作用	情報なし
感作性	知見なし
特性	変異原性：知見なし
	発ガン性：IARCの発ガン性区分でグループ3（ヒトに対して発ガン性について分類できない）に分類されている。【引用文献4,5】
	局所（皮膚：目等）影響 皮膚や目に対し、物理的な刺激がある。

12. 環境影響情報

残留性／分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
生態毒性	魚：データなし
	その他の生物：データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物は原則として、焼却又は埋立てによって処理する。海洋生物、鳥類が摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。

1. 焼却する時は、焼却設備を用いて大気汚染防止法等に適合した処理を施し焼却する。
2. 埋立てる時は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理する。

14. 輸送上の注意

国連分類・番号	分類基準に該当せず
国内規制	消防法における指定可燃物に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
輸送の特定の安全対策及び条件	消防法：指定可燃物(合成樹脂類) 輸送時に容器の破損、腐食、濡れ等のないことと確かめる。 転倒、落下、破損のないように積み込み、荷ずれ防止を確実にを行う。 静電気災害防止を確実に実施する。火気を避ける。

15. 適用法令

法規制	消防法・指定可燃物（合成樹脂類）（3,000kg）
	PRT法（第1種指定化学物質）：該当なし
	（第2種指定化学物質）：該当なし
	安衛法（通知対象物質）：該当なし
	毒劇法（毒劇物）：該当せず

16. その他の情報

引用文献	1) 樹脂ペレット流出防止マニュアル （日本プラスチック工業連盟、1993年2月）
	2) 分子材料便覧 （編者：財団法人高分子学会、発行：コロナ社昭和48年2月20日初版発行）
	3) 産業安全研究所安全資料 （SAFETY DOCUMENT OF RESEARCH INSTITUTE OF INDUSTRIAL SAFETY RIIS-SD-90-1、1990）（労働省産業安全研究所）
	4) IARC MONOGRAPH SUPPLEMENT No. 7 Overall evaluations of carcinogenicity: An updating of IARC Monographs, Volume 1 to 42 (1987)
	5) プラスチックス, Vol. 26, No. 3, P20
記事項	記載内容は現時点で入手できる資料・情報・データに基づいて作成しており、上記の情報は新しい知見により改訂されることがあります。又、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものであって、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。 上記の内容は情報提供であって、保証するものではありません。

安全データシート (SDS)

【1. 化学品及び会社情報】

製品名 : ポリエチレンフィルム
会社名 : 酒井化学工業株式会社
住所 : 福井県鯖江市川去町32字2-1
担当部門 : 品質保証グループ
電話番号 : 0778-62-3705
FAX番号 : 0778-62-3706

【2. 危険有害性の要約】

重要危険有害性及び影響
物理的, 化学的危険性 : 通常の取扱いでの発火・爆発の危険性はないが、可燃性の為 火気に注意必要。
人の健康に対する有害な影響 : 人体に対する直接の有害性はないが、燃焼時に有害ガスが発生する場合があります。
環境への影響 : 注意が必要。
特有の危険有害性 : 影響なし。
GHS分類区分 : 知見なし。
GHS分類区分 : 該当なし。

【3. 組成及び成分情報】

単一製品・混合品の区別 : 単一製品

成分及び含有量	含有量 (wt. %)	CAS番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ポリエチレン	> 99	9002-88-4	(6)-1	既存物質
		25087-34-7	(6)-18	既存物質
		25213-02-9	(6)-1594	9-335
その他添加剤	< 1	—	—	—

【4. 応急措置】

吸入した場合 : 高温の溶融樹脂から発生するガスを吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移る事。
皮膚に付着した場合 : 溶融物が付着した場合には、衣服の上から大量の水をかけ十分に冷却し、衣服を脱がせ医師の手当てを受ける。
目に入った場合 : 清浄な水で洗浄した後、眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたる様に洗浄する。
飲み込んだ場合 : 目をごすってはならない。
応急処置をする者の保護 : 出来るだけ吐き出させ、異常を感じる様であれば医師の手当てを受ける。
救助者が溶融物等に触れない様 手袋を使用するなどの注意をする。

【5. 火災時の措置】

適切な消火剤 : 泡消火剤 (エアフォーム) ・粉末消火薬剤・二酸化炭素・水等
使ってはならない消火剤 : 特になし
特定の消火方法 : 火元の燃焼源を断ち、風上から大量の消火剤 又は 水等により消火する。
移動可能な周囲の製品は安全な場所へ移動させ、火災周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を使用する。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項 : 床面に残ると滑る危険性が高い為、細目処理をする。作業の際は適切な保護具を着用し、ガスを吸入しない様にする。付近の着火源となる物を除く。
保護具及び緊急時措置 : 【引用文献1】
環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさない様に注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び基材 : 袋などに入れて回収し、清掃する。
二次災害の防止策 : 付近の着火源となる物を速やかに取り除くと共に、消火の準備をする。

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い上の注意事項	
取扱者の曝露防止策	: 保護手袋等の保護具を着用する。取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行う。
火災、爆発の防止などの	: 作業場では火気をみだりに使用する事を避け、整理整頓に努める。
技術的対策	
エアロゾル・粉じんの	: 情報なし
発生防止策	
安全取扱い注意事項	: 高温暴露・水濡れを避ける。
保管上の注意事項	
混合接触させては	: 情報なし
ならない化学物質	
適切な保管条件	: 直射日光、水漏れ、急激な温度変化等を避ける。 貯蔵場所ではみだりに火気を使用しない。
技術的対策	: 情報なし
安全な容器包装材料	: クラフト紙・ポリエチレン袋等

【8. 曝露防止及び保護措置】

曝露防止	
曝露限界値(管理濃度)	: 設定されていない
生物学的指標等の許容濃度	: 設定されていない
可能な限り曝露を軽減す	: 局所排気装置を設ける事が望ましい。
為の設備対策	
保護措置	
適切な保護具	: 防塵マスク(呼吸器)、保護手袋(手)、保護眼鏡(目) 保護服・長靴(皮膚及び身体)など

【9. 物理的及び化学的性質】

外観(物理的状態)	形状	: 10 μ m ~ 200 μ mの厚みを有するフィルム
	色	: 透明・半透明
臭い		: なし
P H		: 該当せず
凝固点		: データなし
沸点		: データなし
融点		: 100 ~ 135℃
初留点		: データなし
沸騰範囲		: データなし
引火点		: 341℃ <
発火点		: 自然発火性 400℃ (平均粒径 24 μ m) 【引用文献 2】 440℃ (平均粒径 106 μ m) 【引用文献 3】
燃焼又は爆発範囲の上限下限		: データなし
蒸気圧、蒸気密度		: データなし
比重(相対密度)		: 0.91 ~ 0.975 g/cm ³
溶解度		: 多くの溶媒に溶けにくい、芳香族炭化水素には比較的溶ける。水に不溶。

【10. 安定性及び反応性】

避けるべき条件	: 直射日光、水漏れ、急激な温度変化
混触危険物質	: 特になし
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素(CO)
安定性	: 一般的な貯蔵、取扱いにおいては安定
反応性	: 自己反応性なし

【11. 有害性情報】

急性毒性	: 情報なし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 情報なし
目に対する重篤な損傷性	: 情報なし
又は眼刺激性	
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発ガン性	: IARCの発ガン性区分でグループ 3 (ヒトに対して発ガン性について分類 出来ない) に分類されている。 【引用文献 4, 5】